（財）石川県産業創出支援機構 Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization 新産業創出のための総合的支援情報誌「イシコ」

ISICO

Vol.34

あなたのビジネスをインターネット上でサポート
DGnet URL ● http://www.isico.or.jp



02 巻頭特集

「石川県方式」の手厚い支援で被災中小企業の再建に尽力

谷本正憲理事長インタビュー

産学官連携の最前線
05 トライアングル
（株）ソフィア

制度を活用した取り組み
06 フロム・ユーザーズ
（株）柚餅子総本家中浦屋 ／（株）助政建設

企業の成長戦略を探る
08 いしかわ発！熱血企業
（株）しら井

ネット販売による販路開拓
08 ネット進出レポート
いしかわや

支援施設から羽ばたけ!
09 入居企業ファイル
グラフストア ／ カーネルコンサルティング（株）

10 支援メニューをもっと詳しく
ISICO利用術

最新情報をイチ早く
11 ISICOインフォメーション

私たちがサポートします！
12 平成19年度業務組織と職員紹介

第20回石川県中小企業技術展を開催
16 イシコ・トピックス

しら井の金沢店2階では、ギャラリーを設け、海藻おしば作家・野田三千代さんが制作した作品を展示している。関連情報は7ページをご覧ください。

【表紙撮影/黒川博司】

◎巻頭インタビュー

「石川県方式」の手厚い被災中小企業の再建に

情報や人材、技術、資金、販路開拓など、さまざまな側面から、県内企業をサポートするISICOでは、能登半島地震で被害に遭った中小企業に対しても、全国的にみて前例のない支援策を整えました。さらに、今年度は、地域資源を活用した産業の創出、産業人材の育成など、支援メニューを一層充実させました。企業の成長、再建の力になります。ぜひご活用ください。



（財）石川県産業創出支援機構 理事長
谷本正憲
石川県知事



支援で尽力

ISICOが果たす役割やこれからのビジョンについて、
当財団の理事長でもある谷本正憲知事に聞きました。

――今年3月の能登半島地震では、多くの中小企業が被害を受けた。そのため今年度は、被災した企業の再建、復興が急務となっている。どのような支援策を考えているのか。

震度6強と石川県の観測史上最大規模となった能登半島地震では、奥能登を中心に大きな被害が出た。全半壊家屋は2000戸を超え、漆器や地酒、商店街に代表される奥能登の地場産業も深刻なダメージを受けた。

地震による被害をきっかけに廃業が相次ぐようなことがあっては、奥能登の経済の地盤沈下につながりかねない。とりわけ、漆器は石川県のみならず、日本を代表する伝統産業だ。これが地震で衰退してしまえば、日本の伝統産業の衰退につながりかねないという危機感を持っている。

そこで、被災した中小企業の再建をサポートするため、国と県が合わせて300億円を出資し、7月上旬、ISICOに「能登半島地震被災中小企業復興支援基金（仮称）」を創設する。これを原資に、5年間の運用で見込まれる20数億円を支援に充てる。

――具体的にはどのような支援策が盛り込まれるのか。

支援策の柱は融資制度と助成制度だ。融資制度には5年間の利子補給、保証料の全額補助を盛り込んだ。さらに、過去の債務の借り換えも認めたうえで、運転資金は最大10年間、設備資金は最大15年間、借りられる仕組みを整えた。

助成制度は、損壊した建物や設備の復旧をはじめ、共同施設の整備・復旧、商店街の仮設店舗設置、復興に向けた販売促進活動など、ハード・ソフト両面から補助金を交付する。

過去の被災企業復興基金では、政府系金融機関からの融資に対する利子補給にとどまっており、それに比べると、補助金交付や既往債務の繰り延べなど、被災企業の要望にこたえた手厚い支援メニューとなっている。

今回のように国が原資を用意し、自治体が現場の実態に応じた多様な支援を行う手法は、まさに「石川県方式」と呼べるもので、今後のいいモデルになると思う。

――今後、6月議会で承認を受けて本格的に支援策が動き出す。

中小企業の再建は待ったなしで、スピード感を持った対応が必要だ。議会で承認後、即実行できるよう受け皿づくりを進めている。

一方で、5月からは被災企業の求めに応じ、ISICOのスタッフに加え、中小企業診断士など外部専門家からなる相談チームを派遣し、復興のための資金調達やその返済計画等についてアドバイスを行っている。

ISICOには、これまで事業再生などで培ってきたノウハウがある。その知恵と経験を生かして、被災企業の中から廃業を出さないという強い決意のもと、企業ニーズに合ったきめ細かな支援を行っていく。

――今年度の新たな取り組みとしては、「産業化資源活用支援事業」が挙げられる。このねらいは。

景気が回復基調にあるとはいえ、すべての業種に及んでいるわけではなく、地域間でも格差がある。そんな中、伝統的工芸品や農林水産品、観光資源など、それぞれの地域に埋もれている資源を掘り起こして商品化し、全国に発信することで、地域格差の是正、地域活性化につなげるのがねらいだ。

見方を変えれば、地域おこし運動の一環とも言え、地域の資源をもとに新たな産業が生まれれば、実益をもたらす上、地域に暮らす人々の誇りにもなる。

―― 地域の資源を産業化していくために、新たな組織を設けた。

国は間もなく「中小企業地域資源活用促進法」の施行を予定している。石川県では今年2月、全国に先駆けて関係部局横断の「産業化資源活用推進本部」を設置した。さらに、今年4月には、ISICOにおいて「産業化資源活用推進課」を新設した。

ISICOではこれまで、モノづくりにおけるニッチトップ企業を発掘、育成するため、さまざまな取り組みを行ってきた。これを第2次産業のみならず、第1次産業、第3次産業、伝統産業にまで範囲を広げて、新産業の種を掘り起こしていく。

―― 具体的にはどんなものが考えられるのか。

例えば、これまで加賀野菜の金時草に含まれる抗酸化物質に着目して、美容クリームを開発した企業がある。また、能登野菜の中島菜は血圧の抑制に効果的としてお茶に配合された。

消費者の健康志向は、かつてないほどの高まりを見せており、そうしたニーズに応えていくことで、地場食材の付加価値を高めていくのも一つの方法だ。

とはいえ、農家だけではいい素材を作る力はあっても、どう加工するか、どう売るかというノウハウはない。1次、2次、3次産業と区別するのではなく、相互に乗り入れする、あるいは産業の枠組みを乗り越えて連携、協力していくことが大事だ。

石川には産業化されていない地域資源が多々ある。新たな商品の芽を育てるため、資源の発掘から事業化までをサポートしたい。

―― 増産が相次ぐ製造業などを中心に人材不足の状態が続いている。

今年4月の県内の有効求人倍率は1.31倍という状況だ。こんな時こそ、石川県の産業の将来を担う人材育成が必要だ。求職者に対して、単に職を紹介するだけでなく、どうやって人材を養成するかという発想で就職を考えていく必要がある。

そのため、石川県では今年2月に「石川県産業人材プラン」を策定した。プランでは、人材の確保だけでなく、人材の質を高めることと裾野を広げることを大きな目的としている。

ISICOでは昨年、「人材支援課」を設けて、人材アドバイザーが企業の求める人材像や能力に配慮した人材確保や社員研修の実施方法、早期離職を抑制するための工夫などをアドバイスしてきた。

これに加えて、新たに県内中小企業の人材育成におけるモデル的取り組みの事例集作成、事例発表、優良企業の表彰等を通じて人材育成に対する企業意識の向上と取り組みの促進を図る。

また、生産技術や試験計測技術等について、広範囲にわたる知識の習得を目的とした研修事業を実施するなどして、プランの着実な推進につなげていく。

―― 利用者に対してメッセージを。

石川県の産業の基盤を支えているのは中小企業だ。そういった企業が、新たに製品開発や技術開発、販路開拓にチャレンジしようというときには、ぜひ相談してほしい。ISICOは、企業に対するワンストップサービスセンター。これまでは、第2次産業に分類される中小企業への支援が中心だったが、第1次産業、第3次産業の皆さまにも幅広く利用してもらえる取り組みがはじまっている。職員一丸となって、さまざまなニーズにきめ細かく対応していきたい。



ヒ素を吸着する鉱物に着目
土壌や水質の浄化を手がけ急成長

㈱ソフィア

■所在地　本社／東京都豊島区駒込1-43-12駒込TSビル603号
TEL.03-3947-1565
金沢大研究所／金沢市角間町 金沢大学共同研究センター内
インキュベーションセンター302
TEL.076-234-4054
■代表者　池田 穂高
■設　立　平成14年9月
■資本金　6,330万円
■従業員数　15人
■事業内容　重金属を吸着、安定化する浄化資材の開発・製造・販売、対策や処理に関するコンサルティング
●http://www.sophia-anp.co.jp/


金沢大研究所では、顧客が処理したい土壌のサンプルを使って試験が行われている

ソフィアは、猛毒のヒ素などで汚染された土壌や水の浄化を手がけ、急成長を遂げている大学発ベンチャーだ。金沢大学理学部の佐藤努助教授（現北海道大学准教授）が解明したヒ素を吸着する鉱物「シュベルトマナイト」に、池田穂高社長が着目。金大KUTLOを通じて技術移転を受け、平成14年に事業化に乗り出した。

同社では、シュベルトマナイトを安定供給していくために人工合成を試み、汚染処理資材「アズレ-S」として商品化。これを汚染土壌に混ぜることで、ヒ素を吸着、安定化し、地下水などに流れ出すのを防ぐ。

工場跡地などの汚染土壌は、掘り出して土を入れ替えるか、遮水シートで封じ込める方法が一般的だが、ソフィアの技術は、これらの方法に比べてコストが1/2～1/3に抑えられ、工期も大幅に短縮できるのが特徴だ。池田社長は、「自然の浄化作用を応用した手法なので、環境に負荷をかけず安全だ。一度吸着すれば、自然環境下では再び溶け出す危険性はない」と同社の技術に自信を見せる。


池田社長は、金沢大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの特任教授として新たなシーズの発掘にも取り組む。手にしているのがシュベルトマナイトの粉末

金沢大学や北海道大学などに協力を仰ぎながら、設立から5年で、「アズレ-S」をはじめ商品ラインアップは6種類に増え、処理可能な有害物質も鉛やセレン、六価クロムなど、12種類にまで増えた。

土壌の浄化で培った技術は現在、水質浄化にも応用されている。平成17年から2年かけて、ISICOの実施する「産学・産業間連携新豊かさ創造実用化プロジェクト推進事業」として、水質浄化に関する研究を進めている。同社では、排水中に含まれるホウ素、フッ素などの処理に関するノウハウを確立すると同時に、低コストで除去できるシステムを完成させ、工場や温泉施設からの受注を拡大している。

「技術力と営業力がかみ合わないとベンチャーは成功しない」と池田社長が話すように、同社は営業にも力を入れている。現在、本社を置く東京のほか、札幌、名古屋にも営業拠点を構え、8人のスタッフが販路開拓に汗を流す。営業戦略の一環として、今年4月には、東京都内で工場排水の浄化システムについて実験を交えながら紹介する技術発表会を開催。100社120名が参加する盛況ぶりで、今後の受注に大きな手ごたえを感じている。

売り上げは右肩上がりで、今期は前期の約3倍となる10億円の売り上げを目指し、平成21年には東証マザーズ上場を視野に入れている。池田社長は「環境汚染は世界共通の問題。仕事は際限なくある」と話し、近い将来、海外に打って出る考えだ。

From USERs フロム・ユーザーズ
設備貸与制度の利用者に聞く

商品ラインアップの充実に角折包装機が活躍


饅頭などの包装に使われている角折包装機

(株)柚餅子総本家中浦屋

■所在地　輪島市河井町4部97番地　TEL 0768-22-0131
■代表者　中浦 政克　■創　業　明治43年9月
■資本金　1,000万円　■従業員数　13名
■事業内容　和菓子製造販売
●http://www.ysn.am/

門前町との合併を機にソバを使って商品開発

ユズを丸ごと使った餅菓子、丸柚餅子（まるゆべし）の製造、販売で知られる中浦屋。輪島市の中心部、わいち通りにある店を訪れると、柚餅子のほかにも、羊羹や最中、饅頭、せんべい、ジュースなど、ユズを使った豊富な商品ラインアップに驚かされる。

素材はユズだけにとどまらない。例えば、昨年、販売をスタートした「くしひ饅頭」は、たっぷりのこし餡を山芋とソバ粉の皮で包んだ饅頭だ。ソバ粉は、皮まで挽いたものを使い、一口食べると、ソバの香ばしい味わいが口いっぱいに広がる。


輪島市内の中心部、朝市通りに続くわいち通りにある中浦屋

この商品は、輪島市と門前町が平成18年2月に合併したのをきっかけに開発したものだ。「お菓子は本来、地域の素材を加工して食べたのが始まり。地元の素材や歴史を意識しながら商品開発にあたっている」と話すのは、中浦屋の中浦政克社長。その言葉通り、門前町の名物であるソバを取り入れ、ネーミングは、合併によって消えてしまった總持寺祖院周辺の地名「櫛比（くしひ）の庄」に由来している。

こうした商品群の充実に一役買っているのが、ISICOの設備貸与制度である。これまで蒸し器など数々の機械を導入しており、3年前から活用している角折包装機もその一つ。これは、菓子を一つずつ充填しながら、ビニールシートで包み、最後に熱で封緘する機械で、導入によって、くしひ饅頭などの包装作業は飛躍的にスピードアップした。

ユズを使わない「第二の柚餅子」を構想中

相次ぐ商品開発が実り、20年前には10%ほどしかなかった柚餅子以外の商品の売り上げが、今では50%を占めるまでになった。

とはいえ、明治43年の創業以来、中浦屋の看板商品と言えば柚餅子である。売り上げに占める比率が下がったと言っても、販売量そのものが減っているわけではない。ショーケースには、伝統的な丸柚餅子に加え、一口サイズで食べやすい玉柚餅子、細長い棒状にした棹柚餅子といったふうに、さまざまな柚餅子が並んでいる。


中浦社長は伝統を大切に守りながらも、さまざまな新商品を企画し続けている

さらに中浦社長は現在、「第二の柚餅子」を開発すべく構想を練っている。中浦社長によれば、全国的に見れば、ユズを使わずにくるみを練り込んで蒸し上げたものなど、柚餅子は多様な餅菓子として発展を遂げているという。

そこで、丸柚餅子のような伝統的な柚餅子を守り続ける一方で、ユズにこだわらずに全国で通用する柚餅子を作ろうというのが「第二の柚餅子」構想である。開発途中とのことで、詳細は明かしてくれなかったが、年末までには試験販売にこぎつけたい考えだ。

ISICOでは、企業の設備投資を支援するための
設備貸与制度で、企業の成長を後押ししています。
制度を活用して事業の拡大に成功した企業の取り組みを紹介します。

神社・仏閣用の大きな柱などを ランニングプレーナーで加工

(株)助政建設

■所 在 地　珠洲市宝立町柏原申字6番地1　TEL 0768-84-1455
■代 表 者　薮下 順一　■創　　業　昭和43年3月
■資 本 金　3,000万円　■従業員数　43名
■事業内容　神社・仏閣、一般住宅の建築

スピードアップと省力化、コスト削減に貢献

神社・仏閣の建築を中心に手がける助政建設は昨年5月、ISICOの設備貸与制度を利用して、ランニングプレーナーを導入した。

プレーナーとは電動カンナのこと。ランニングプレーナーは二本のレールの間に木材を固定し、その上を機械が行ったり来たりしながら加工を施す。最大で直径60センチ、長さ12メートルもの木材が加工可能で、神社・仏閣の柱などに使われるような、長くて太い木材の加工に重宝している。

しかも、この機械は特注品であり、切断や穴開け、みぞ彫りといった加工を一台でこなす複合機である。あらかじめベニヤ板などで作った型に沿って刃を動かすことで、複雑な曲面加工にも対応。薮下順一社長は、「これまで10日間かかっていた仕事が1日でできるようになった。重たい材料を動かす必要もない上、仕上がりにもバラつきがない」と顔をほころばせる。

宮大工の仕事というと、すべて手仕事という印象も強いが、近年では、熟練した職人の減少や高齢化、コストダウンに対応するため機械化が進んでいる。同社のランニングプレーナーも導入直後からフル稼働しており、スピードアップと省力化、コスト削減に貢献している。こうした機械を導入していない地元の工務店から、部材の加工だけを受注するケースも増えてきた。

とはいえ、決して伝統的な大工仕事をおろそかにしているわけではない。最後は、人の手で丁寧に仕上げるのは今も昔も変わらない。



「設備を利用しながら、余力を人の手でしかできない仕事に振り向けたい」と話す薮下社長

確かな技術力で文化財の修理も手がける

主に一般住宅を建築していた助政建設が、同業者からの応援要請をきっかけに神社・仏閣の建築に乗りだしたのは約20年前のことである。以来、社寺建築の比率は上がる一方で、昨年は95%を超えるまでになった。活躍のフィールドは県内にとどまることなく、全国各地に広がっている。

そのバックボーンとなっているのが、同社の確かな技術力である。その一つの証とも言えるのが、薮下社長らが有している文化財建造物木工主任技能者認定である。これは、伝統的な建築技法に対する高度な技術を持った木工技能者を(財)文化財建造物保存技術協会が認定する制度。認定を受けた者だけが、文化庁の指導のもと、国宝・重要文化財建造物の修理にあたることができる。

同社では、平成14年から17年にかけて国重要文化財の時国家(輪島市)の修復に携わったほか、平成11年には、金沢城公園内の菱櫓、五十間長屋、橋爪門続櫓の再建にも取り組んだ実績を持つ。

今年3月の能登半島地震に際しては、仮設住宅を建築したほか、被害に遭った社寺からの相談も相次いでいるという。今後も、その専門性と技術力を発揮しながら、業容拡大を目指していく。



社寺建築に使われる太くて長い木材の表面を加工するランニングプレーナー



助政建設では年間2～3棟を施工する。写真は平成10年に竣工した照福寺(輪島市)

いしかわ発！熱血企業

企業の成長戦略を探る

石川県には、キラリと光る企業がたくさんあります。
独自の技術やサービスを認められ、県内外を問わず
幅広く受注に成功している企業の成長戦略を紹介します。

(株)しら井

天然ものにこだわる昆布の専門店



七尾の昔ながらの町屋を再現したしら井の七尾本店

七尾市内でも最も古い通りの一つ、一本杉通りで昆布の専門店を営むしら井。北海道産の天然ものだけを扱い、その中でも最上級にランクされる希少な昆布にこだわっている。

昔ながらの町屋を再現した店内には、昆布をはじめ、昆布巻きやおぼろこんぶなど、さまざまな商品が並べられている。販売にとどまらず、職人による手削りや加工までをトータルに手がける店は全国的にみても珍しい。商品開発にも熱心で、今年春には、現代の食生活に合わせて昆布の用途を広げてもらおうと「お料理昆布」を商品化した。これは、北海道産の真昆布を1ミリ以下の細さに裁断したもので、ご飯や酢の物はもちろん、パスタやサラダといった洋食メニューにも気軽に使えるのが特徴だ。

平成17年10月には金沢市東山に金沢店をオープンした。七尾では有名店だが、金沢ではまだまだ無名。そこで、まずは店のこと、昆布の魅力をもっと知ってもらおうと、店舗の2階に食事処を設け、昼食時に30食限定で昆布づくしの料理を提供している。

「ネット販売もなければ、顧客へのDMも出していない。時間がかかる商売のやり方かもしれないが、ゆっくり浸透していけばそれでいい。金沢でもいずれ、しら井の昆布なら間違いないと言われるようになりたい」。白井修社長はそう話し、売り上げよりも、客の満足度の向上を追求し続ける。

■所在地　七尾市一本杉町100番地
TEL　0767-53-0589
■代表者　白井 修　■創　業　昭和6年4月
■資本金　1,000万円　■従業員数　20名
■事業内容　昆布、昆布加工食品の販売
●http://www5.ocn.ne.jp/~shirai52/

ネット進出レポート

▶ ネット販売による販路開拓 ◀

ネット販売を行っている県内の意欲ある店舗を支援するため、
バーチャルショッピングモール「お店ばたけISHIKAWA」を開設しています。
ネットに進出し、さまざまな方法で販路開拓を行っているお店ばたけ出店者を紹介します。
※新規出店者を随時募集しています。出店条件、審査基準などの詳細は、
http://www.omisebatake-isico.com/katudou/koubo.html

いしかわや

http://www.ishikawaya.com/

北陸3県の珍味をネットで販売

石川県を中心に北陸3県の珍味や調味料140品をネット販売する、いしかわや。平成16年、ネットショップを立ち上げ、ISICOのバーチャルモール「お店ばたけ」に出店した。2年目からは、ほぼ毎日、注文が舞い込むようになり、経営は軌道に乗ってきた。

北陸には全国的に知られる珍味が多い点に着目し、日持ちする塩干物などに商品を絞り込んだ。１日のサイト訪問者数は500～600人。紺矢誠代表は「当初、ショップのターゲットは個人消費者と考えていたが、現在では飲食店からの受注が売り上げ全体の35%を占めるまでになり、経営は安定してきた」と喜び、ネットショップの人気の目安となる訪問者数1,000人突破を目標とする。

独立以前には珍味・海産物会社で勤務。この会社のホームページ制作を担当し、平成12年、ネット支援セミナー「バーチャルショップ道場」に通った。セミナーで培った知識と人脈は、今回のショップ立ち上げの原動力になったという。昨年、自社ホームページをリニューアルした際には、ホームページドクターから買い物かごの配置などのアドバイスを受け、より購入しやすいサイトづくりに腐心した。また、30%で推移する購入者のリピート率をアップさせるため、商品の梱包にも細心の注意を払う。

今後、消費者の購買意欲を高めるため、サイトには動画を導入する。紺矢代表は「動画では“パリッ”といった音も伝えます。具体的な調理方法なども紹介したい」とし、五感に訴える手法で売り上げ増を図り、将来的には実店舗の展開を目標に据える。



ホームページではブログを開設するなど、消費者との距離を縮める努力を欠かさない

■所在地　野々市町御経塚2-192-405
TEL　076-249-6072
■代表者　紺矢 誠
■設　立　平成16年5月
■従業員数　1名
■事業内容　珍味、調味料のネット販売

入居企業ファイル

Tenant file

ベンチャー企業やSOHOなどを支援するため、
いしかわフロンティアラボ、いしかわクリエイトラボ、
SOHOプラザクリエーションオフィス、石川県ビジネスサポートセンターといった
低料金で利用できる事業スペースを提供しています。
その入居企業の中から、独自の取り組みを見せる2社を紹介します。

いしかわSOHOプラザクリエーションオフィス

GRAPH STORE（グラフストア）

確かなデザインで受注を拡大



金額の大小にかかわらず、アイデアで顧客を満足させる

ウェブデザイン、グラフィックデザイン、イラストレーションなどを手がけるグラフストアのオオタニユリさん。硬軟いずれにも対応できるデザイン力と、期待以上のアイデアを生む発想力が顧客を引きつけ、年を追うごとに受注を増やしてきた。

いしかわSOHOプラザクリエーションオフィスに入居したのは平成17年4月のこと。独立してから約6年間は寺井町（現・能美市）の自宅をオフィスとして使っていた。取引先の多くが金沢市内に本社を置いていたため、利便性の向上を考え、拠点を移した。オオタニさんは「持参したのはノートパソコン一つ。プリンターなどの周辺機器が常備されていたので、すぐに仕事を始められた」という。現在、週4～5日、このオフィスで仕事をしている。

拠点を移して以降、取引先は5割増となり、関東や関西からの仕事も舞い込むようになった。また、既存クライアントからの発注も軒並みアップ。JAや学校、ガソリンスタンドなどのホームページを作成した。自宅よりも集中できるオフィス環境が作業効率を上げ、倍増した仕事量もこなせている。

クライアントの要望だけでなく、エンドユーザーを意識したデザインづくりには定評があり、顧客からの信頼は厚い。「デザイナーという職業が電気屋さんのように『我が町のデザイナー』と呼ばれる身近な存在でありたい。見た人が楽しくなるデザインをこれからも描く」とオオタニさん。今後も石川に根を下ろし、デザイナーを続ける。

■所在地　金沢市鞍月2-1　TEL　076-268-1200
■代表者　オオタニユリ
■従業員数　1名
■事業内容　ウェブデザイン、グラフィックデザイン、イラストレーション、アニメーションなどの制作

石川県ビジネスサポートセンター

カーネルコンサルティング（株）

医業経営を人材面と技術面から支援

医療従事者、IT系技術者の紹介、経営などのコンサルティング業務を主に手がけるカーネルコンサルティング。医療用機器や医薬品販売を行う「エーワンメディック」の設計・施工部門の子会社が前身で、平成17年5月に社名変更した。これまで培った医療機関とのパイプを生かし、人材の確保やITによる業務のスリム化など、病院経営を支援する事業へと転換した。

最大の特徴は、サイト上で求職・求人登録を行う点で、求職者の登録は常時1,000人を超える。北海道から九州までのエリアをカバーし、求職側と求人側を匿名でマッチングさせ、採用が見込める段階で両者を面談させるシステムで、これまでに多くを成立させた。

平成18年10月、石川県ビジネスサポートセンター（東京都千代田区麹町）に入居した。求職希望登録者がもっとも多い首都圏に拠点を構えることで、情報収集を円滑にし、業務の効率化を図るのが狙いだ。東京営業所を開設後、求人数、求職者登録数が大幅に増加。公的機関の施設を利用することで、顧客からの信頼性が増した。

今年7月には、全国の病院や医師など15万8,000件を検索できるシステム「Dr-street（ドクターストリート）」の運用を開始する。患者が病院や医師を選ぶ際に参考にしてもらうのはもちろん、病院の詳細情報を求職者に公開することで、病院の人材確保にも一役買う。高木政則会長は「病院経営は厳しさを増しており、過疎地域の医師不足は深刻な状態にある。この状況を打破したい」と医療の地域格差の是正を民間から推し進めていく構えだ。



求職者の性格や能力を的確に捉える“目”を養うことが、人材紹介を成立させるカギとなる

■所在地　金沢市泉野出町4-6-4　TEL　076-280-1811
■代表者　高木政則　■設立　平成13年8月
■資本金　1,000万円　■従業員数　15名
■事業内容　有料職業紹介事業・労働者派遣事業・コンサルティング業務・システム開発
●http://www.kernelc.co.jp/

知ってトクする

ISICO利用術

No.04 ライブラリ

1. インターネットで検索可能に！

貿易・デザイン関連の蔵書を1,720冊追加。

産業振興ゾーン内で、図書を保有しているジェトロ金沢と石川県デザインセンター所蔵の書籍等をISICOのホームページ「DGnet」にて検索できるようになりました。

◎独立行政法人日本貿易振興機構の資料
◎財団法人石川県デザインセンターの資料
◎石川県発明協会の資料
◎財団法人石川県産業創出支援機構の資料

◎産業振興ゾーン内団体の資料（約1,720冊）

操作手順

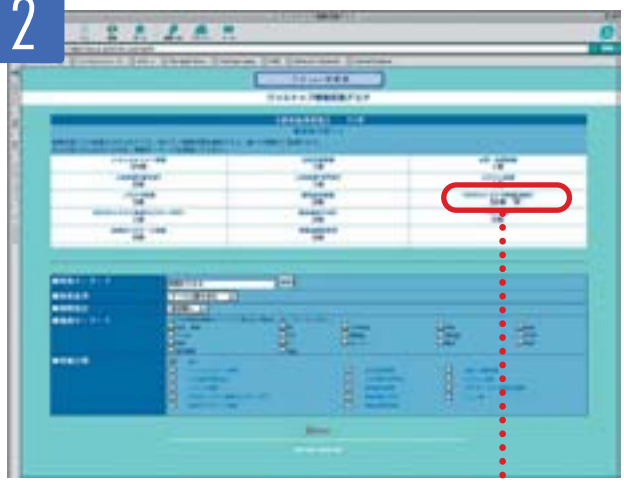
http://www.isico.or.jp

1



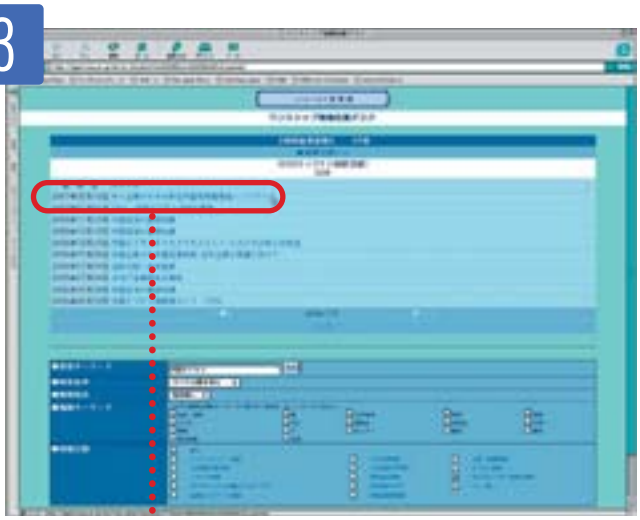
ISICOのホームページ「DGnet」の検索欄にキーワードを入力して検索!

2



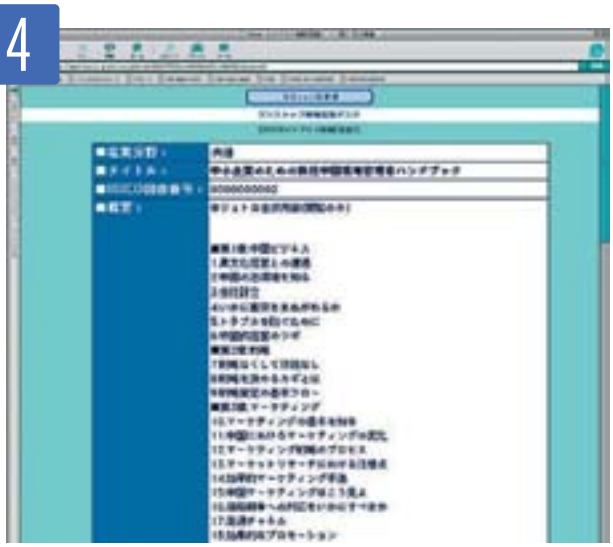
［ISICOライブラリ情報（図書）］をクリック!

3



検索結果の中から見たい項目をクリック!

4



資料の詳細情報が表示されます。

※目次情報も入力していますので、必要なキーワードを入力し、検索してください。探している図書が見つかるかもしれません。

中小企業のための総合的なサポートセンターとして、さまざまな支援を行っているISICO。「もっと支援内容を詳しく教えてほしい」。そんな要望におこたえして、提供している支援メニューを毎号ピックアップして紹介します。

2. ライブラリの資料について

ISICO内（県地場産業振興センター新館1F）にライブラリを設け、下記の資料等をご覧いただくことができますのでぜひ、ご利用ください。



◎図　書（8,980冊）

法律、辞典、統計、指標、年報、年鑑、白書、会社名簿、団体名簿、調査報告書、便覧、手引、索引、一般図書

◎雑　誌（91冊）

TDB REPORT、ヤノレポート、日経グローカル、賃金事情、日経PC21、月刊レジャー産業資料、ISOマネジメント、企業診断、プレジデント、起業塾、潮流、ビジネスデータ、北陸経済研究、日経ビジネス、週刊東洋経済等

◎ビデオ（4,184本）

経営実務、経営戦略、組織、人事管理、情報システム、財務、税務、経理、法律、新入社員、一般社員、（OJT、管理者、中堅社員）、製造技術、環境（ISO）、他

●開館時間　月～金曜日　午前8時30分～午後7時30分
　　土曜日　　午前10時～午後5時

●休 館 日　原則として日曜・祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）
※このほか、都合により休館することもあります。

【お問い合わせ】
(財)石川県産業創出支援機構 産業振興部 産業情報課
TEL 076-267-1001

ISICO INFORMATION ◎イシコ・インフォメーション

いしかわSOHOプラザクリエーションオフィス

平成19年度
オープンスペース利用会員
随時受付中!!

こんなあなたのニーズに応えます。

打ち合わせ、商談にネット環境のある場所がほしい

いつもと違った環境で仕事がしたい

ビジネス交流会に参加したい



■サービス内容

❶ 多目的サロンのご利用
❷ 商談室のご利用
❸ 設備機器のご利用（コピー複合機、レンタルパソコンなど）
❹ インターネット（100Mbps）接続無料
❺ その他（情報誌「ISICO」送付、SOHOPLAZAニュースのメール配信）

■会 費
3,600円／年度

■利用時間
午前9時～午後5時

■休館日
土曜日・日曜日・祝祭日及び
年末年始（12月29日～1月3日）

【お問い合わせ】いしかわSOHOプラザクリエーションオフィス　TEL 076-268-1200

平成19年度　業務組織と職員紹介

業務組織

総務企画部 ›››

組織の管理と事業の総合調整

- ●総務企画課

産業振興部 ›››

中小企業の情報化の推進、受注・販路開拓支援
産業人材の確保・育成支援

●産業情報課	広報、インフォメーション 産業情報の収集・発信、情報化支援
●販路開拓課	取引情報の収集提供と取引あっせん、 販路開拓支援
石川県ビジネスサポートセンター	首都圏ビジネス支援拠点 （東京都千代田区）
●人材支援課	産業人材の確保、育成支援

経営支援部 ›››

中小・ベンチャー企業の創造的事業活動の促進、
経営基盤の強化、再生、経営革新など総合的支援

●経営支援課	総合相談窓口 創造的・意欲的中小企業の経営基盤強化、 経営革新支援
●新事業支援課	創業及びベンチャー企業の発掘・育成、 新事業支援
SOHOプラザ・クリエーションオフィス	SOHOビジネス支援拠点
●設備資金課	設備資金の貸付、設備の貸与・リースによる設備導入支援
●再生支援室	中小企業の再生、事業転換・新分野進出支援

プロジェクト推進部 ›››

産学官・産業間連携の推進、共同研究による
新技術開発支援
地域資源を活用した新事業、地域プロジェクト支援

●研究交流課	産学官・産業間連携の推進 共同研究のコーディネート、 プロジェクト管理
特許流通支援室	特許流通、知的財産活用支援
●産業化資源活用推進課	地域資源を活用した新事業、 地域プロジェクト支援
●都市エリア推進室	都市エリア産学官連携促進事業の管理
●知的クラスター推進室	知的クラスター創成事業の管理

サイエンスパークオフィス ›››

サイエンスパークの活性化推進
新産業創造の支援拠点

●石川ハイテク交流センター	サイエンスパークの総合窓口・ 交流拠点
●いしかわクリエイトラボ	ベンチャー・研究開発型企業の インキュベート施設
●いしかわフロンティアラボ	ベンチャー・研究開発型企業の 賃貸施設

県内企業が最新の技術や製品を紹介

第20回石川県中小企業技術展

懇談会では谷本知事がトップセールを展開

ISICOは5月17日（木）から3日間、県産業展示館2号館で「第20回石川県中小企業技術展」を開催し、会期中、約67,500人が優れた製品や技術に触れた。

中小企業技術展は、県内中小企業の高度な技術力や開発力を県内外の企業に広く紹介する場として毎年開催しているもので、今回は、58社7組合が出展し、優れた製品や部分組立品、部品、素形材などを一堂に展示した。

また、17日（木）には、県内中小企業の受注機会拡大を図るため、金沢エクセルホテル東急で「石川県企業交流懇談会」を開催した。

懇談会には、県外から大手・中堅発注企業36社から役員、発注担当部課長54名が参加。石川県からはISICO理事長の谷本正憲知事をはじめ、県内企業100社113名が参加し、情報交換や商談を行った。



石川ブランドに3部門で46件を認定

県内の中小企業が開発した新製品や新技術を石川県、ISICOが審査し、優秀な製品を認定する「石川ブランド優秀新製品認定制度」では、今回、3部門で46件を認定した。今年度から認定企業のうち特に優秀な企業を部門別に金賞、銀賞、銅賞として選定した。認定された製品を開発した企業には、展示会の出展費などを助成する。受賞企業と製品は次の通り。

生活産業部門

- 金賞
  （株）サワヤ「**冷えルーフ**」
- 銀賞
  （株）リング・オフィス「**能登輪島　水塩　はジめ**」
- 銅賞
  （株）小松プロセス「**再帰性反射ロープ**」

情報産業部門

- 金賞
  （株）C-GRIP「**Coda-DTV Broadcaster**」
- 銀賞
  （株）シーピーユー「**MadricWind**」
- 銅賞
  小松電子（株）「**UV文字認識ユニット**」

機械産業部門

- 金賞
  （株）ヨシダ鉄工「**メッシュクーラントコンベヤ**」
- 銀賞
  （株）北菱「**キャッチカメラφ200自走ロボット**」
- 銅賞
  （株）サン・アロイ
  「**R系超硬合金　長寿命冷間鍛造工具用超硬素材**」

最新情報の収集から、経営や技術に関する相談、産学官のネットワーク形成など、あなたのビジネスをインターネット上で支援するDGnet（デジネット）をご活用ください。

さらに詳しい情報・最新情報は、
DG net↓
http://www.isico.or.jp
をご覧ください。

Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

財団法人
石川県産業創出支援機構
Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

●お問い合わせは
TEL:076（267）1001
FAX:076（268）4911
〒920-8203　石川県金沢市鞍月2丁目20番地
石川県地場産業振興センター新館
URL　http://www.isico.or.jp
E-mail　info@isico.or.jp

編集後記

今回の巻頭特集は、当支援機構の平成19年度の取り組みについてご紹介するほか、今年度のスタッフをご紹介しております。今年度も情報誌「ISICO」をよろしくお願い致します。

［発行月］2007年6月（年6回発行）　［発行所］財団法人　石川県産業創出支援機構　［編集協力］ライターハウス／金沢市問屋町1丁目75番地

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています